

くりはらの大豆だより

宮城県栗原農業改良普及センター

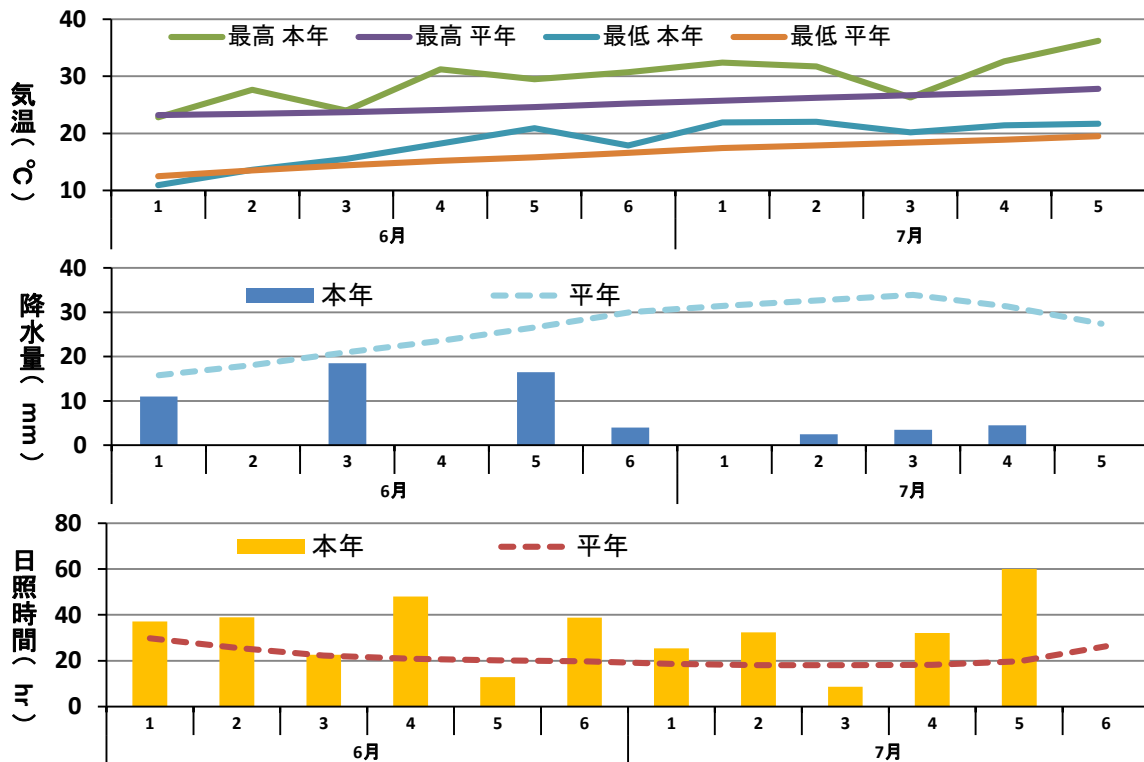
第2号 令和7年8月5日発行

TEL 0228-22-9404

大豆栽培の今後の管理のポイント

■ 湿害対策 ■ 高温・干害対策 ■ 適期の病害虫防除

気象経過（築館アメダス）



生育状況

◎生育調査ほ（7月25日調査）

- ・ミヤギシロメでは主茎長が短く、主茎節数、分枝数は平年並みとなっています。
- ・開花期はすずみのりで7月27日頃と見込まれます。

表1 生育調査結果（7月25日調査）

品種 地域		播種期	主茎長	主茎節数	分枝数	開花期
すずみのり	本年値	6/11	28.8 cm	8.6 節/本	1.7 本/本	7/27頃
志波姫	平年差	—	— cm	— 節/本	— 本/本	—
新八樟						
ミヤギシロメ	本年値	6/9	48.1 cm	12.3 節/本	1.3 本/本	未
若柳	平年差	10日遅	-11.8 cm	+0.6 節/本	+0.3 本/本	平年 8/5
三田鳥						

※平年差は過去5年の平均値との差です。

※「すずみのり」の生育調査は今年度からのため、平年差はありません。

今後の管理

湿害/高温・干害対策

<高温・干害対策> - 開花期以降に晴天が10日間以上続きそうな場合に実施 -

開花期以降は、それ以前の3～4倍の生育量となり、多量の水分を必要とします。
高温乾燥条件下になると、落花や落莢、着莢率の低下、子実肥大も劣り減収に繋がります。
また、「莢ずれ」が発生しやすくなり、外観品質が低下します。

- ・ 暗きよの水閘を閉じて水分保持に努めてください。
- ・ かん水が可能な場合は、畝間の土壌表面に水がしみ出す程度、ほ場に水分を補給しましょう。

◎各生育ステージの乾燥による影響◎

- ・ 花芽分化～開花始期：花数の減少、落花・落莢の増加
- ・ 開花終期 ：落莢・不稔莢の増加
- ・ 開花終期以降 ：百粒重の低下、莢ずれの増加

<湿害対策> - 降雨が続く場合に実施 -

子実が肥大する生育後期の土壌過湿は、根の呼吸阻害や根粒菌の活性低下を引き起こすことで窒素供給が抑制され、減収につながります。

- ・ 暗きよを開放して、地下排水を促しましょう。
- ・ 大雨の後や長雨のときは、排水溝が詰まっていないか、また明きよに水が溜まっていないかを確認し、必要に応じて修繕しましょう。

■農作業中の熱中症に注意しましょう！

農作業中に熱中症になる人が増加しています。熱中症は正しい知識を身に付けることで適切に予防することが可能です。

✓高温時の作業は避けましょう。

- ・ 農作業中の熱中症による死亡者数を年代別に見ると70代以上が約9割を占めています。高齢者の方は特に注意が必要となります。

✓単独作業は避けましょう。

- ・ なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。

✓20分おきに休憩&水分補給を行いましょう。

- ・ 涼しい日陰などで作業着を脱ぎ、体温を下げましょう。のどがかわいていなくても、20分おきに毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう。

✓熱中症対策アイテムを活用しましょう。

- ・ 帽子や吸湿速乾性の衣服を着用することや、空調服や送風機、ウェアラブル端末などを活用し、熱中症リスク回避をしましょう。

農薬使用の際は「使用前、周囲よく見てラベル見て」農薬危害防止運動実施中！

適期の病害虫防除

処理時期	対象病害虫	防除方法・時期の目安など
7月下旬 ～ 8月上旬 (発生に応じて 適時防除)	ウコンノメイガ	・食害が目立つのは8月中旬以降であるが、この時期は老幼齢であり、薬剤防除効果が低い。 ・幼虫による葉巻数(写真1)が要防除水準を上回っている場合には(要防除水準:大豆1本あたりの葉巻数が1つ以上の場合)、7月下旬から8月上旬にかけて薬剤防除を行う。
8月上旬 ～ 8月下旬 (発生に応じて 適時防除)	オオタバコガ ツメクサガ ハスモンヨウ	【オオタバコガ/ ツメクサガ】 ・食害が早く、中齢幼虫以上(写真2)になると葉及び莢を食害し、被害が大きくなるため、早期発見と早期防除が重要となる。 ・若齢幼虫は未展開葉を食害するため、未展開葉が食害されていた場合は適時防除を行う。 【ハスモンヨトウ】 ・若齢幼虫期の防除が効果的であり、白変葉(写真3)が増加したところの薬剤防除が効果が高い。
8月下旬 ～ 9月上旬 (病害虫防除 ①、②)	紫斑病 マメシンクイガ ダイズサヤタマバエ フタスジヒメハムシ カメムシ類 サヤムシガ類 アブラムシ類	【紫斑病】 ・莢の発病は開花30日後以降に急増するので、この時期(若莢期)に重点を置いて適時防除を行う。 【マメシンクイガ、ダイズサヤタマバエ、フタスジヒメハムシ(写真4)、カメムシ類】 ・この4害虫は同時防除が可能となる。薬剤散布は8月下旬が1回目、その7～10日後に2回目の散布を行う。 【サヤムシガ類】 ・莢や茎葉を糸でつづり合わせて食害する(写真5)。発生した場合は、8月中下旬(若莢期)に適時防除を行う。 【ジャガイモヒゲナガアブラムシ(写真6)】 ・生育後期(8月下旬～9月上旬)に発生がピークに達し、ウイルスの媒介や早期落葉による収量・品質の低下要因となる。 ・多発する恐れがある場合、発見後に適時防除を行う。

ウコンノメイガによる葉巻症状



写真1

オオタバコガ(幼虫)による食害



写真2

ハスモンヨトウによる白変葉



写真3

フタスジヒメハムシ(成虫)食害



写真4

ダイズサヤムシガによる食害



写真5

ジャガイモヒゲナガアブラムシ



写真6